

トヨに向かう進化の流れが強調され、進化に対する行動学的貢献の可能性が示唆されている。トゲウオ科における変異性をこのように単純化してしまうのがやや気になった。

さて、「はじめに」でどこから読み始めても良いと書かれているが、評者には読む順序が全体を理解する上で意外に重要であるように思われた。それは現代の「進化史」における分子遺伝学的手法の重みが至るところで痛感されることと無関係ではない。もし第3章か読み出したら、それ以前の章の印象が異なってしまうだろうと私は感じた。では第4章はどうか。これとても例外ではないが、先に書いたように少なくともここで話題にしたような生活史戦略の進化史では、系統との密着度が未だ低い。ここには分子系統をわき目で見ながら、独自の理論を展開するフィールド(余裕?)が残されているように思われた。本書は編者の目が全体に行き渡り、統一が良く取れているばかりでなく、

著者の主張、用語の定義が明確に示されていて読みやすい。誤植もほとんどない。しかし、いたるところに出てくる「ミトコンドリアDNA」の表記法は、第6章におけるように一度ことわった上で「mtDNA」を使っても良かったのではないか。この他に「メタ個体群」(第8章)と「メタポピュレーション」(第9章)が不統一だったが、これについては用語の簡単な説明が欲しかった。とにかく、本書は魚類学の教科書的でない読み物として優れているばかりでなく、自らの研究の位置付けを考える上で、極めて示唆に富む情報に満ちている。これから研究をはじめようという若者を含めて多くの人に是非読んでもらいたい良書である。

(沖山宗雄 Muneco Okiyama: 〒171-0051 豊島区長崎2-10-12 プリンズハイツ椎名町503)

図書紹介・New Publications

魚類学雑誌
47(1): 75

□ 魚類系統分類学

A comparative phylogenetic study of amiid fishes (Amiidae) based on comparative skeletal anatomy. An empirical search for interconnected patterns of natural history. —L. Grande and W. E. Beims. 1998. Society of Vertebrate Paleontology, Memoir 4. Chicago. x+690 pp. ISSN 0272-4634. 現生種・化石種を網羅したアミア科魚類のモノグラフ。圧巻の一冊である。すばらしい写真と線画が多数(436)織り込まれている。手にとれば「これぞ自然史」となること必定。(KS)

Phylogeography: the history and formation of species. —J. C. Avise. 2000. Harvard Univ. Press, Cambridge. 447 pp. ISBN 0-674-66638-0. 種内あるいは近縁種間の遺伝子系統の地理的分布を規定している原理やプロセスの解明を目的とする新しい学問分野、それが系統地理学である。本書は、この分野の大御所のAviseによって執筆された好著であり、第一部「系統地理学の歴史と概念的背景」、第二部「種内の系統地理学的研究」および第三部「系統的統合：種形成に向けて。およびそれを超えて」から構成されている。分子系統、生物地理、種分化に興味をもつ研究者の必読書と言えよう。(AG)

□ 魚類生態学

ブラックバスがメダカを食う。 一秋月岩魚。1999. 宝島社(新書)。東京。222pp. ISBN 4-7966-1580-6. 660円。フリーランスの写真家である著者が、日本の在来淡水魚を愛する気持からブラックバス問題を論じたものである。バス釣りは犯罪であ

り、密放流によって分布を拡大させたブラックバスがいかにか日本の湖沼や河川の生態系を破壊したのかを歯切れよく説明している。「湖沼河川は国民の公共財産」という視点で、淡水魚を含めた内水面管理を見直すべきだという主張も説得的である。ブラックバスはもうどこにでも広まってしまったのだから仕方がないと考えるのではなく、今からでも減少させるための方策を真剣に考えていくべきであると痛感した。(OK)

□ 進化学

ダーウィンの箱庭—ヴィクトリア湖。 —ゴールドシュミット, T. (丸 武志 訳)。1999. 草思社, 東京。358 pp. ISBN4-7924-0886-3. 2500円(税別)。本書は1994年に出版された“Darwin's Dreampond: Drama in Lake Victoria”の日本語版である。300種以上に及ぶシクリッド類が1万2千年という短期間にヴィクトリア湖でいかに適応放散し、種分化を成し遂げたのか、また近年のナイルパーチの移入や乱獲によって生じたシクリッド類の大絶滅の出来事を、フィールド研究生活におけるエピソードを通して、生き生きと描いている科学エッセイである。既刊の「タンガニカ湖の魚たち」(堀 道雄編, 平凡社)と併せて読まれることをお勧めする。(AG)

The origin and evolution of larval forms. —B. K. Hall and M. H. Wake (eds.). 1999. Academic Press, San Diego. 425 pp. ISBN 0-12-730935-7. 幼生形態の起源と進化について15名の専門家が無脊椎動物も含む幅広い分類群を対象に議論をしている。形態が主であるが、内分泌など生理学的な側面も取り扱われている。J. C. Webbによる仔稚魚の手際よいレビューを含む。(KS)